

令和6年度 学校経営計画に対する中間評価報告書

石川県立金沢二水高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果（カッコ内昨年同時期結果）	分析（成果と課題）及び後期の扱い（改善策等）
1 学習指導： データやデジタル技術を活用して、グローバル社会で求められる資質・能力を育成する。	① データを活用することで、生徒の論理的な思考力や批判的な思考力を育成する。そのための授業の工夫を促し、研究授業等の機会を設けることで教員間で共有する。	「論理的に考えたり主張するためにデータを活用することができる」の問いに対して「あてはまる」または「おおむねあてはまる」と答える生徒が A：90％以上 B：85％以上 C：75％以上 D：75％未満 新しい質問項目	7月 生徒アンケート結果 「よくあてはまる」：16.4％ 「おおむねあてはまる」：63.0％ 合計：79.4％ 【達成度C】	・新しい質問項目であり、過年度との比較はできないが、今後「よくあてはまる」がより上昇していくことが望ましい。 ・授業や探究活動の中でデータを活用し論理的に考えたり、主張したりする場面を増やす工夫をしていく。
	② 学習や部活動・学校行事などの機会を活用して、「振り返り」を導入することによって、生徒一人ひとりが自らの課題を設定し、克服しようとする力を育む。	「学校生活において、何をすべきかを自分で考えて主体的に行動している」の問いに対して「よくあてはまる」あるいは「おおむねあてはまる」と答える生徒が A：90％以上 B：85％以上 C：75％以上 D：75％未満	7月 生徒アンケート結果 「よくあてはまる」：33.9％（28.8％） 「おおむねあてはまる」：55.7％（57.0％） 合計：89.6％（85.8％） 【達成度B】	・昨年同期より「よくあてはまる」と答えた生徒が5.1％上昇した ・更なる向上のため「失敗してもいいから、とにかくやってみる」ということを授業、部活動、学校行事といったあらゆる場面で伝えていく。
	③ 適切な発表技術等を生徒に教えるとともに、自分の意見や調べたことを発言・発表できる場を授業や学校行事で設定する。	「授業を通して表現力が高まった」の問いに対して「あてはまる」または「おおむねあてはまる」と答える生徒が A：90％以上 B：85％以上 C：75％以上 D：75％未満	7月 生徒による授業評価結果 「あてはまる」：46.4％（41.6％） 「おおむねあてはまる」：40.8％（44.2％） 合計：87.2％（85.8％） 【達成度B】	・昨年同期より「あてはまる」と答えた生徒が5.0％近く上昇した。 ・新型コロナウイルスによる、発言等の場面の制限が緩和されたことで、授業中での発言の場面は増加している。 「あてはまる」と答える生徒がさらに増加するよう、授業で心理的安全性を担保しながら、自らの考えを表現する機会を増やす等一層の工夫をしていく。
	④ オンライン教材などの個別最適化学習を支援するデジタル技術を導入し各教科で活用することで、生徒が自主的に苦手分野を克服または発展的な学習を進められる力を育む。	「デジタル教材・ツールを、自らの苦手分野の克服または発展的な学習に活用することができている」の問いに対して「よくあてはまる」あるいは「おおむねあてはまる」と答える生徒が A：80％以上 B：65％以上 C：50％以上 D：50％未満 新しい質問項目	7月 生徒アンケート結果 「あてはまる」：23.0％ 「おおむねあてはまる」：53.4％ 合計：76.4％ 【達成度B】	・新しい質問項目であり、過年度との比較はできないが、今後「よくあてはまる」がより上昇していくことと共に、「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」がより減少していくことが望ましい ・授業や補習、自宅学習等でより活用してもらえるように教員、生徒双方に対して活用方法や効果を周知していく。
学校関係者評価委員会の評価		・オンライン教材による個別最適化学習の導入により、教員の時間的負担が軽減できるかどうかは考慮すべきことである。 ・表現力の向上は喜ばしい傾向である。対面での協働的な学びの機会が充実することが、学校で学ぶことの意義につながるのであれば大変評価できる。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針		・オンライン教材による個別最適化学習は、まだまだ試行錯誤の段階であり、指導する教員が習熟することで、効果的な学びにつながるとともに、教員の負担感が減少すると考えられるので、今しばらく全教員で取り組んでいきたい。 ・授業を中心とした協働的な学びの中で、自らの考えを表現させたり、相手の話を傾聴することで、対話を通した表現力の向上をさらに目指していく。		

重点目標		具体的取組		実現状況の達成度判断基準		集計結果(カッコ内昨年同時期)		分析(成果と課題)及び後期の扱い(改善策等)	
2	進学指導： 生徒の進路意識の成熟を促し、高い目標を強い意志を持って実現する生徒を育成する。	①	将来にむけて、一人一人のキャリアビジョンの発達を促すため、さまざまな進路行事を通して、文理選択や学部学科選択、将来について広く考える機会を設ける。3か年を通して、系統だったキャリア教育を、時宜を得た適切なかたちで行う。	全学年、「前より自らの将来のキャリアについて深く考えるようになった」と答える生徒が A：75%以上 B：60%以上 C：65%以上 D：60%未満	7月 生徒アンケート結果 よくあてはまる ：53.0% (43.4%) おおむねあてはまる ：38.6% (43.6%) 合計：91.6% (87.0%) 【達成度A】	・今年度1年生は、秋の文理選択にむけて、1学期を重視し、ライフプラン作成や適性診断などを実施している。総合的な探究の時間でも、キャリア研究を行い、「研究」まで意識して、キャリア意識の育成を図っており、系統だったキャリア教育を適切な時期に行っている。 ・今後も3年間見通したプランのもと、適切な時期に実施できるよう準備していきたい。			
		①	保護者懇談や保護者対象の進路説明会、生徒への面談を通して、生徒の進路に関して保護者と十分情報交換を行い、信頼関係を築く。 特に3年生の保護者には5月及び8月に進路説明会を行い、新課程入試について、本校の実績を踏まえて説明する。1年生の保護者には、7月に進路説明会を行い、文理選択に対する十分な情報提供を行う。	「本校の進路指導や保護者への情報提供は適切であるか」の問いに対して「よくあてはまる」または「おおむねあてはまる」と答える保護者が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	7月 保護者アンケート結果 よくあてはまる ：25.1% (18.4%) おおむねあてはまる ：67.6% (67.9%) 合計：92.7% (86.3%) 【達成度A】	・「よくあてはまる」の割合は6.7%増加し、「合計」では6.4%増加した。 ・3年生の保護者に対しては、5月に第1回、8月に第2回の説明会を実施した。1年生の保護者に対しては、従来9月に実施していた説明会を7月に実施し、文理選択に関する情報を早期に生徒・保護者に提供できるように変更した。そのため、1年生の保護者の割合が増加していると考えられる。 ・2年生の保護者に対しても、8月に説明会を実施し、進路情報の提供を行う。的確な情報提供に努め、保護者のニーズに応えたい。			
		②	担任の生徒面談や、学年集会・進路講演会・進路説明会等の各種進路行事を有効に活用し、生徒の現状を把握し、生徒の意欲を高めるとともに、具体的にやるべきことを明確にし、共有する。 難関大志望者に対し、2年次から、意識づけ・学習サポート・集団づくりを進路指導課・学年団で連携し、早期から取り組む。	①3年生の9月段階で難関大・金大を志望する生徒が A：65%以上 B：60%以上 C：55%以上 D：55%未満 ①3年生の9月段階で、生徒の学習時間（授業以外）の平均が A：週45時間以上（平日5、休日10時間換算） B：週34時間以上（平日4、休日7時間換算） C：週27時間以上（平日3、休日6時間換算） D：週29時間未満	9月初旬に志望校調査・学習時間調査を実施予定	・6月進研共通テスト模試では、253名の生徒が難関大または金沢大を志望しており、全体で66%を超えている。(昨年度234名) ・9月初旬に志望校調査・学習時間調査を実施予定			
		③	生徒個々の志望や学力にあわせた、各大学に応じた入試対策を補習や個別添削指導を行い、進路実績の向上を図る。 近年入試で求められる情報処理能力や表現力、思考力を高める授業へと各教員が改善する。	現役合格者数が 金大80以上、難関大30以上 A：両方を満たす B：どちらか一方を満たす 金大70以上、難関大20以上 C：両方またはどちらか一方を満たす D：両方を満たさない					
学校関係者評価委員会の評価		・大学の学部学科の再編が激しい時代において、進路指導のあり方は考え続けなければならない。また、理系の女子枠の活用の仕方についてもどう捉えていくのかは課題。 ・45分授業にして生まれた時間をどのように生徒に使わせるか、自由裁量を与えることが重要。							
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		・短期的な進路指導である大学進学の情報や教員がアップデートしながら生徒に提供することだけではなく、長期的な進路指導として、何を実現したいのかといった「幹」の部分をしっかりと生徒がつくれるように教員も努力し続ける。 ・増えた余白を、新しい課題で埋めるのではなく、生徒自身がどのように使うかをデザインできるようにしていくことが真のねらいであることを共通理解しておく。							

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果(カッコ内昨年同時期結果)	分析(成果と課題)及び後期の扱い(改善策等)
3 生徒指導・部活動: 人間形成に主眼を おいた生徒指導を 行い、進学校にふ さわしい部活動を 追求する。	① 勉強と部活動の両立を図るため に効率的な活動を追求し、生徒 の学習時間の確保や、部員が勉 強に主体的に取り組む姿勢をも つような指導を工夫するよう呼 びかける。また、部活動で得た 自信を勉学につなげ真の文武両 道を目指す。	「勉強と部活動の両立ができている」の問いに 対して、「よくあてはまる」「おおむねあては まる」と答える生徒が A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満	7月 生徒アンケート結果 よく・おおむねあてはまると答えた割合 1年: 70.4% (72.1%) 2年: 73.6% (65.5%) 3年: 77.1% (70.2%) 全体: 72.8% (69.3%) 【達成度B】	・1年生は昨年に比べ値が下降しているが、高校での生活に慣 れきっていない点が影響しているのではないかと。 ・2年生、3年生は昨年度に比べ、約7～8%上昇している。 部活動を頑張りながら勉強も取り組もうという雰囲気は感じ るので、このまま顧問側からも両立する大切さを説いていき たい。
	① 生徒が自主的に挨拶を行うよ う、生徒会等の挨拶運動を継続 するとともに、教職員自らが積 極的に挨拶を行うことで範を示 し、教職員、生徒の自覚をさら に高める。	「挨拶はしっかり行っている」の問いに対し て、「よくあてはまる」「おおむねあてはま る」と答える生徒が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	7月 生徒アンケート結果 よく・おおむねあてはまると答えた割合 1年: 91.9% (91.6%) 2年: 92.8% (89.2%) 3年: 92.7% (88.2%) 全体: 92.5% (89.7%) 【達成度A】	・昨年同時期より、全学年やや数値が高くなっている。 ・これまで同様、生徒会のあいさつ運動、部活動での指導を継 続し、生徒の自覚を高めていきたい。
	② 本校の「いじめ防止基本方 針」に基づき、いじめアンケ ート、個人面談・保護者懇談や学 校行事等の取り組みを確実に実 施することで、いじめの予防 や、早期発見を行う。	「いじめ予防や早期発見、早期対策に取り組ん でいる」の問いに対して、「よくあてはまる」 「おおむねあてはまる」と答える教員が A: 95%以上 B: 90%以上 C: 75%以上 D: 75%未満	7月 教職員アンケート結果 よくあてはまる : 55.2% (43.8%) おおむねあてはまる : 44.8% (54.7%) 合 計: 100.0% (98.5%) 【達成度A】	・今年度も、学年団の迅速な面談等で、いじめにつながりかね ない人間関係トラブルを把握し、その後の指導・観察等に役 立てようとしている。今後も継続して取り組んでいきたい。
	④ 日頃からの生徒観察により、 気づいたことを関係者が素早く 共有することを全教職員が心が ける。またチーム学校として連 携し、的確な対応を組織的に 行うシステムを構築するとともに 外部機関と連携し、心身の調和 を基盤とした生徒の人間形成を 図る。	【生徒アンケート】「先生は生徒理解に務め、 生徒個人の悩みにも対応している」の問いに対 して「よくあてはまる」「おおむねあてはま る」と答える生徒が A: 95%以上 B: 90%以上 C: 80%以上 D: 70%未満	7月 生徒アンケート結果 よくあてはまる : 47.9% (45.3%) おおむねあてはまる : 47.8% (49.3%) 合計: 95.7% (94.6%) 【達成度A】	・配慮の必要な生徒について、教職員間で関係者との連絡を定 期的に、又必要に応じてすみやかに実施しており、共通理解 を図るとともに的確な対応を行っている。 ・悩みや問題を抱える生徒について、関係職員と共有し、組織 的に支援していく体制を継続していきたい。 ・学年別の生徒評価を見ても、学年が上がるにつれて「よくあ てはまる」の割合が高まっている。今後も継続して取り得く んでいきたい
学校関係者評価委員会の評価		・いじめの予防・早期発見について、「十分成果を上げている」という成果指標に対して、達成度の判断基準が「取り組んでいる」という指標となっており、ずれがある。 ・外部機関と連携を行いながら「チーム学校」として、様々な悩みや心身の問題を抱える生徒には向き合っている。 ・「挨拶」ができているかについて保護者の4分の1が「わからない」と答えているのは何故か。		
学校関係者評価委員会の評価結 果を踏まえた今後の改善方策		・いじめの予防・早期発見のために生徒へのアンケートの活用や日頃の観察などの情報収集を徹底することを引き続き実践していくことは継続の上で、「成果指標」ではなく「努力指 標」と変更することで、評価のずれを解消する(成果指標とすると、予防したことや発見した件数が裏付けるデータとなり、判断基準を作成しにくい) ・心療内科などの医療機関やSSWとの連携を引き続き必要に応じて実施していく。 ・学校公開の機会などを通して日頃の生徒の様子を見ていただく場を設ける。		

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果（カッコ内昨年同時期結果）	分析（成果と課題）及び後期の扱い（改善策等）
4 学校組織：業務の効率化を進め、高い専門性と広い見識に基づいた協働的な教育活動を追求する。	<p>R6年度より、45分授業を日課の基本と変更することで放課後の可処分時間を増やすことや、機械警備の開始時間を30分繰り上げることによって、より一層タイムマネジメントの意識を高めるとともに、ワークライフバランスを推進することで、教育活動の質を高める。</p> <p>STEAM教育やDXなどのプロジェクトを推進することにより、求められる教育のアップデートをはかり、自己研鑽や協働の機運を醸成する。</p>	<p>①「効率化やタイムマネジメントを意識した業務の遂行に努めている。」の問いに対して「よくあてはまる」「おおむねあてはまる」と答える教員が、 A：85%以上 B：75%以上 C：60%以上 D：60%未満</p> <p>②「社会の変化を意識して、新しい教育に意欲的に挑戦している」の問いに対して「よくあてはまる」「おおむねあてはまる」と答える教員が、 A：85%以上 B：75%以上 C：60%以上 D：60%未満</p>	<p>①7月 教職員アンケート結果 よくあてはまる ：32.8%（24.2%） おおむねあてはまる ：52.2%（60.6%） 合計：85.0%（84.8%） 【達成度A】</p> <p>②7月 教職員アンケート結果 よくあてはまる ：32.8%（26.2%） おおむねあてはまる ：55.2%（55.4%） 合計：88.0%（81.6%） 【達成度A】</p>	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「よくあてはまる」「おおむねあてはまる」と答える教員が85.0%と、昨年同時期よりやや増加した。 ・今年度より45分授業を日課の標準としたことにより、生徒のみならず教員にとっても放課後が30分長くなり、教員個々のタイムマネジメントへの意識も浸透してきたことで、退校時間も早くなってきた。今後も業務の効率化に引き続き努めていく。 <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「よくあてはまる」「おおむねあてはまる」と答える教員が88.0%と昨年度より6.4ポイント増加した。 ・STEAM教育推進校に加えDXハイスクールの指定を受け、教員間に新しい教育への意識が浸透しつつある。
学校関係者評価委員会の評価	<p>・教師が心も体も元気でないといけない。そのために残業時間や有休休暇の消化など勤務管理を管理職には期待する。教職員と管理職が日頃のコミュニケーションをしっかりとって心身の筐体を把握することが必要。</p> <p>・STEAM教育など新しい取組への対応は負担が大きいと思うので、チームとして当たっていくことが大切。</p>			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	<p>・管理職として、引き続き教職員の心身の状態に注意を払っていくとともに、新しいことにも挑戦できるように「余白」を生み出す工夫をしていく。</p>			